

ワイマン OSTP 副長官、辞職へ（6月1日）

ノーベル賞受賞者であり、2010年から大統領府科学技術政策局（White House Office of Science and Technology Policy : OSTP）副長官（科学担当）を務めてきたカール・ワイマン氏（Carl Wieman）が、6月2日付けで同職を辞任した。

同氏は、世界で初めてボース・アインシュタイン凝縮（Bose-Einstein condensate）を実現した功績が認められ、2001年にノーベル物理学賞を受賞し、その後は大学生の指導方法に関する定量分析の研究に従事してきた。

同氏は、2007年にはカナダのブリティッシュ・コロンビア大学（University of British Columbia : UBC）において「カール・ワイマン科学教育イニシアティブ（Carl Wieman Science Education Initiative）」を進める一方、コロラド大学ボルダー校（University of Colorado at Boulder）においても、大学生は何を学ぶべきであるか、そして、最も効率よく学ぶにはどうすべきか、という観点から科学教育イニシアティブを推進してきた経緯を持つ。

2010年にOSTP副長官に就任後は、オバマ政権が推し進める科学教育向上に向けた取り組みの旗振り役として活躍してきた。辞職の理由は一身上の都合とされており、今後大学での研究に復帰するかは現在のところ不明である。

Nature Publishing Group, Star science-education researcher leaves the White House
<http://blogs.nature.com/news/2012/06/star-science-education-researcher-leaves-the-white-house.html>